

# 【後志森林管理署】 木造建築・我が署紹介！



現庁舎

「歌オブナ林」などの貴重な自然環境を有し、支笏洞爺国立公園、ニセコ積丹小樽海岸国定公園、狩場茂津多道立自然公園などの第一級の森林・自然景観を眺望することが出来ます。また、海外から注目されるニセコアンヌプリ周辺のスキー場をはじめ多くのレクリエーションエリアがあり、豊富な温泉資源と相まって、自然とのふれあいの場として多くの人が訪れる観光資源としての役割も期待されています。

## 【管理署の変遷】

後志森林管理署の前身となる旧倶知安営林署庁舎は、昭和29年に建築され、

後志森林管理署は、北海道の南西部に位置している後志胆振地域に広がる約13万haの国有林を管理経営しています。

自生するブナ林の北限として天然記念物や希少個体

群保護林に指定されている

国有林管理拠点として半世紀近くにわたる歴史を歩みました。旧倶知安営林署は、平成11年3月、組織の再編に伴い、「後志森林管理署」へと改称され、室蘭営林署、黒松内営林署の管内を管轄下に、後志・胆振流域管理の拠点として位置づけられました。

これを契機として、現在の庁舎が新築されることとなり、庁舎は、平成15年11月に竣工し、今年で20年を迎えます。

## 【現庁舎の概要】

庁舎は、木造平屋建て、延べ床面積470㎡の規模で、道南地方から産出されるウダイカンバやセンノキ、スギ、ヒバ、エゾマツ、トドマツ、カラマツなどの木材が使用され、木の香りが漂う建物になっています。

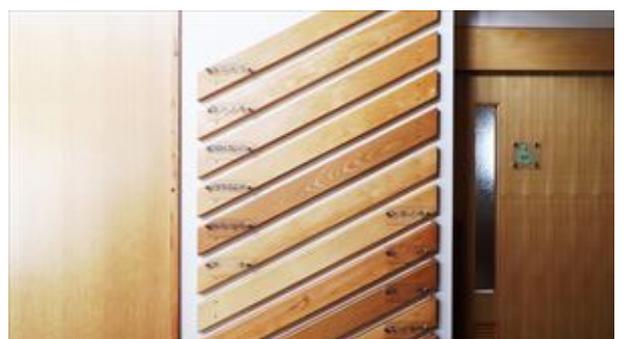
無落雪屋根を採用し、構造材にはカラマツ、トドマツ、エゾマツの大断面集成材を使用し、力強さ、優し



会議室

さ、温もりなど「木の良さ」を十分に活かした建築構造としています。また、フロアリングには、イタヤカエデ、ミズナラが使われています。

バリアフリーにすることで、来訪者や地域の方々が「開かれた国有林」を実感できる開放型施設とし、地域から親しまれる建物となっています。また、署長室、執務室からはニセコアンヌプリをはじめするニセコ山系、羊蹄山などが眺望でき、



北海道を代表する広葉樹の板

雄大な自然が身近に感じられる環境のなかで業務を行っています。

これからも公益重視の管理経営を一層推進するとともに、民有林と国有林が連携して地域の森林・林業・木材産業の活性化に貢献するとともに、後志・胆振地域の国有林の管理経営の拠点として、名実ともに「国民の国有林」として地域に必要とされる存在となるよう業務に取り組みしていきます。